

金澤冬三郎 かねさわ とうさぶろう 實業家、俳人。明治十一年十一月（二十一日）埼玉縣北足立郡鴻巣生れ、昭和十九年十一月二十一日没（八七—八九）。號世骨、雪男、雪雄。明治二十六年慶應義塾大學政治學科卒。板倉卓造等と塾生同の機關誌『三田評論』を創刊。二十八年支那へ渡り、時事通信社北京通信員となる。四十一年大日本製糖株式會社に入社、累進として取締役、爾來實業界に活躍。昭和二十二年後進塾員のため慶應俱樂部を興し、また新聞研究會を設けた。同年大學通信教育を創始するに當り、慶應通信株式會社が創立せられ、社長に就任。俳句も能くし、柳山梓月との歌仙二巻を遺す。

生前『武女道の記』（竹越與三郎「女性文學界に於ける武女の地位」及び「白拍子武女道の記」収録。昭和十四年十一月）『十五百彩文堂』を編纂刊行。『金澤冬三郎』（追憶録）『（昭和二十二年十一月）百慶應通信株式會社』がある。



金沢冬三郎